

第 102 回大腸癌研究会リンパ節委員会 議事録

2025 年 1 月 30 日 (木) 14:30～15:30

別府国際コンベンションセンター 3F 小会議室 31 + WEB

<出席者 (敬称略)>

金光幸秀 (国立がん研究センター中央病院)、神藤英二 (防衛医科大学校)、小川真平 (東京女子医科大学)、小澤平太 (栃木県立がんセンター)、野澤宏彰 (東京大学)、川村純一郎 (近畿大学)、尾崎公輔 (がん研有明病院 ※代 川合一茂)、秋吉高志 (がん研有明病院)、塩澤学 (神奈川県立がんセンター)、女屋博昭 (愛知県がんセンター)、三口真司 (県立広島病院)、渡邊 純 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)、須藤 剛 (山形県立中央病院)、大内晶 (愛知県がんセンター)、片岡幸三 (兵庫医科大学)、池田 聡 (県立広島病院)、丸山 聡 (新潟県立がんセンター新潟病院)、高山裕司 (自治医科大学)、安井昌義 (大阪国際がんセンター)、高見澤康之 (事務局、国立がん研究センター中央病院)

<WEB 出席者 (敬称略)>

吉田武史 (久留米大学)

<議事>

リンパ節委員会で検討中の 4 つの課題について、各小委員会から進捗の報告がなされた。

(1) 課題 1. N3 分類の再定義

- ・検討課題「結腸癌における郭清効果 index の検討」 発表 大内先生

大腸癌研究全国登録データを用いて、Stage I-III 結腸癌における郭清効果 index の検討を行った。約 3 万例の結腸癌症例を対象に解析され、主占拠部位別の郭清効果 index が供覧された。既報より傍大動脈リンパ節転移の郭清効果 index の算出も行い、本研究における郭清効果 index の比較指標としている。結腸癌においては、支配動脈の主リンパ節の郭清は一定の郭清効果を認められると思われる。本研究は現在 AG Surg へ投稿中。また、第 125 回日本外科学会で発表予定。今後は引き続き深達度別の解析も予定。

- ・検討課題「リンパ節獲得個数が予後に及ぼす影響の再考」 発表 片岡先生

大腸癌研究全国登録データを用いて、Stage II/III 結腸癌を対象とし予後不良となるリンパ節検索個数の至適カットオフ値を検討した。Stage II 約 4000 例、Stage III 約 3500 例での解析が行われ、腫瘍局在別(右側/左側)、Stage 別の至適カットオフ個数が提示された。全体として、従来の 12 個という基準は予後の目安として妥当である可能性があるが、本研究では Stage II においては 12 個より 7 個の方が予後と相関しており、腫瘍局在や Stage で至適カットオフ個数が変わる可能性が示唆された。また、リンパ節の検

索個数と術後補助化学療法に関連も検討されたが、リンパ節検索個数自体は術後補助化学療法の効果指標とならない可能性が示唆された。本研究は 2025 ASCO GI でポスター発表された。現在論文作成中。

(2) 課題 2. リンパ節転移陽性基準の検討

発表 小川先生

結腸間膜 LN、直腸間膜 LN（前治療あり）、直腸間膜 LN（前治療なし）、直腸側方 LN（前治療あり）、直腸側方 LN（前治療なし）それぞれの条件における術前リンパ節診断能に関する論文のシステマティックレビュー、メタアナリシスの経過が報告された。結腸間膜 LN に関しては 9 本の論文を対象に解析中。直腸間膜 LN 転移（前治療あり/なし）は 29 本の論文を対象に解析中。直腸側方 LN 転移（前治療あり）は 9 本の論文を対象に解析中であり、本年度中に論文投稿予定。直腸側方 LN 転移（前治療なし）は 15 本の論文を対象に論文作成中。各検討の報告では現状の診断能を示し（HSROC：感度○%、特異度△%、AUC□、という表記）、診断基準ごとの比較を予定する。統括的なレビュー論文は小川先生が作成中。

論文化がされれば今後規約に診断能を提示できる可能性がある（金光委員長）。

(3) 課題 3. 側方リンパ節アトラスの作成

発表 渡邊先生

前回から引き続き、解剖学的用語の見直しが行われた。アトラスは前回までの 4 割面に 2 割面が追加され、合計 6 割面のアトラス案が提示された。今回提示されたアトラス案は小委員会、委員会でのレビューを予定。アトラス案を元に各リンパ節領域の定義や線引きに関するコンセンサスミーティングを次回委員会までに予定する（web）。また、断面図はシェーマに差し替えを行い、女性版の作成も予定する。シェーマのイラストレーターは選定済み。

(4) 課題 4 副右結腸静脈周囲リンパ節の取扱いに関する検討

発表 三口先生

2024 年 7 月 15 日～試験登録が開始された。現在ファイルメーカーを用いて CRF を作成しているが、ファイルメーカーが無い施設のためエクセルファイルでの登録も対応している。登録開始から半年で 101 例が集積され、2 年 400 例のペースで登録が出来ている。

以上、4 つの課題の進捗と今後の方針が提示された。今後も課題ごとに進めていく方針。

（文責：事務局 高見澤康之）